

文学部地理学科地域文化研究専攻2021年度カリキュラム 卒業必要単位数：124単位

<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)</p>	<p>地理学科および地理学科に設置されている二つの専攻（地域文化研究専攻・地域環境研究専攻）は、地域の文化や環境の本質について、フィールドワークを通して理解できる人材を育成する。この学習成果をもって、卒業後、交通・旅行業界、地図製作・測量業界、不動産関連業界、行政・教員、学術・研究などの分野において、実務の現場で活躍できる人材を輩出することを目標とする。具体的には、「学士（地理学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。</p> <p>(DP1) 本学の建学の理念を理解した上で、人間と自然の関係について考え、主体的に行動できる力を身につけていること。 (DP2) 地理学的な調査・研究・発表に必要な倫理観を備えていること。 (DP3) フィールドワーク、観測、測量、統計分析、GISなど、地域の文化や環境の調査に必要な知識と分析能力を身につけていること。 (DP4) 協働して地域を対象とした調査を行い、その結果に関する正確な文章表現ができること。 (DP5) 専門知識を活かして、地域の課題を解決する実践力を修得していること。</p>
<p>教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)</p>	<p>地理学科では、ディプロマ・ポリシーに示した目標を達成するために、以下の専門教育課程を編成して実施する。</p> <p>1. 教育内容 1) 一年次は、地理学の対象と領域、見方・考え方について理解する。加えて、地図や地域統計を利用した基礎的な分析スキルを修得する。 2) 二年次は、地理学の学問的な要となる地図について学ぶ。また、地域文化や地域環境に関する専門的な知識と技術を学ぶ。 3) 三年次は、地理学の根幹であるフィールドワークを重視した野外調査実習を軸として発展的な学習を進める。また、測量やGISなど社会で有用なICT教育を含む高度な技術を身につける。 4) 四年次は、卒業論文の作成・執筆をとおして、高度な技術力と地域の課題を解決するための深い洞察力を持った専門知識人の育成を目指す。 5) グローバル化する社会に対応するために、海外での学習や体験を奨励し、積極的に支援する。</p> <p>2. 教育方法 1) 一年次は、必修科目である「人文／自然地理学入門」と「人文／自然地理学実習」を配置し、導入教育を行う。加えて、基本的なICT教育も行う。 2) 二年次は、必修科目の「地図学」、および地域文化や地域環境に関する専門選択必修科目の講義および実習を広く配置する。また、実際に地域調査を体験するための「地域調査入門」も配置する。これらにより、専門的な知識と技術を修得することができる。 3) 三年次は、地域文化・地域環境研究専攻それぞれに「地域文化調査法／演習」「地域環境調査法／演習」を選択必修科目として配置し、実際の調査・研究をとおしてそれぞれの専門分野における知識および調査スキルなどをアクティブ・ラーニング形式で学ぶ。また、実習系専門科目を配置し、測量やGISなどに関する高度な技術を学ぶ。 4) 四年次は、必修科目として「地理学演習」を配置し、卒業論文執筆のための指導を行うとともに、地域の課題を解決するための能力の向上を図る。 5) 専門科目に「海外研究」を配置し、海外体験から学んだことを専門的な視点からレポートにまとめることにより単位として認定する。 6) 各年次において必修科目の単位が取得できていない学生に対して個別に学修指導を行う。</p> <p>3. 評価 地理学科では、駒澤大学全体の評価方針に基づき、以下の表に示すレベルと視点から学修成果の評価・測定を行う。</p>
<p>入学者受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー：AP)</p>	<p>地理学科では、自然環境や人間が営む広い意味での文化現象など、地域と人間の関連に対して深い関心を持ち、空間的な思考を得意とする学生を求めている。具体的な人物像は、以下のとおりである。</p> <p>1. 地理学科が求める学生像 (AP1) 受験科目に特化した勉強ではなく、高等学校の教育科目を広く履修し、本学科での学修に必要な基礎学力を有していること。高等学校において「地理」は履修していることが望ましい。〔知識、理解、技能〕 (AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、入学後学んだ地理学の専門知識や技術を、積極的に社会に還元しようとする意欲と目的意識を持っていること。〔意欲、関心、態度〕 (AP3) 自然環境や人間が営む広い意味での文化現象など、地域と人間の関係を考察し、それをわかりやすく他人に説明することができること。〔思考力、判断力、表現力〕 (AP4) 現地調査に耐えうる健康的な身体と精神を持ち、自分と異なる考えを持つ他人とともに調査・研究を協働して行うことができること。〔主体性、多様性、協働性〕</p> <p>以上の視点に基づき、多面的・総合的な評価により入学者選抜を行うために、別表に入学者選抜形式ごとのAPの重点項目を示す。</p>

